

〔1番 小笠原美保子 登壇〕

○1番（小笠原美保子）

議長のお許しを得ましたので、質問させていただきます。早速ですが1つ目の質問です。ストレス社会と言われる現代において、パワーハラスメント、虐待、DV、いじめ、あおり運転など老若男女を問わず、かっとしやすい人が増加していると言われております。特に長引くコロナ禍により、学校や職場、家庭など様々な場所でこれまで以上にストレスを抱える方も増えているようです。

人は自分の思い通りにならない事が重なると、不安や不満がたまり、感情をコントロールできなくて物事を客観的に見ることができず、周りの人や環境のせいにして八つ当たりをし、相手を傷つけ、場合によっては大きな問題に発展することさえあります。アンガーマネジメントは、このような怒りの感情と上手に付き合うための方法として1970年代にアメリカで始まりました。

これは、イライラしたり、かっとなったりして出る衝動的な言動や行動を抑制して、適切なコミュニケーションを取るための手法であり、メンタルトレーニングとして体系化されているため、誰でも気軽に取り組む事ができます。怒りは、自分の願望や欲望がかなわないときに起きると言われています。人に対してどこかで自分の思い通りになって欲しいという気持ちがあり、こうであるべき、こうすべきと相手に対して求め、それがかなわないときに起こるものであると言えます。

また、怒りは二次感情であり、その前に何らかの一時感情があって引き起こされるものだと思います。例えば、不安や寂しい、つらい、悲しいといったマイナス感情があるところへ、何らかの引き金があって、第二次感情としての怒りが現れるそうです。アンガーマネジメントは自分の心に、あるいは相手の心に、どんな一時感情があり、何が引き金なのかを見つける作業でもあります。

そして、相手の心は変えられないが、自分の心は変えられると考え方を切り替える事、あるいは相手に自分の価値観を押し付けるのではなく、自分が相手を理解できるよう努力する事で、怒りをコントロールできるようになると言われています。

アンガーマネジメントはトレーニングであり、ある程度続ければ誰にでもできるようになる方法で、スポーツと同じように子どもの頃から早く始めるほどうまくなると言われております。

福祉分野のカウセリングや、パワーハラスメントの予防などに広く用いられており、教育現場においてもいじめの防止などに期待されているようです。

アンガーマネジメントを取り入れた中学校の道徳の教科書もあり、教職員の研修や企業の研修にも取り入れているところもあるようです。そこで飛騨市としてのお考えをお伺いたします。

1つ目ですが、小中学校の教育活動に取り入れてみてはいかがでしょうか。令和3年12月4日に飛騨市人権講演会が行われ、メディア学者の渡辺真由子氏による「深刻化するネットいじめ」の現状と大人の役割について学ばせていただきました。

子供を取り巻く環境が昔とは大きく違うため大人の意識改革がとても大切で、いじめる側のためのアンガーマネジメント教育の必要性も語っておられました。

子供たちが1人残らず「生まれてきて良かった」と思える社会を作る責任が私達、大人にあり

ます。子供たちがより良い学校生活を送れるように、教育活動にアンガーマネジメントプログラムを取り入れてはいかがでしょうか。

2点目は、職員研修や市民への活用のお考えをお訪ねいたします。子供だけでなく大人達にとっても家族間のコミュニケーション、子育てにおいて感情的にならない叱り方やストレスとの付き合い方、職場の人間関係など感情のコントロールを学ぶ事は非常に重要だと思います。

イライラしている方の側にいると周りに伝わり影響しますし、怒りの感情が職場の人間関係や雰囲気を悪化させ、仕事にもマイナスの影響を与えることとなります。働きやすい環境で生産性を上げるために、職員研修や市民への講座など導入してはいかがでしょうか。2点お尋ねいたします。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔教育長 沖畑康子 登壇〕

□教育長（沖畑康子）

私からは1の1、アンガーマネジメントの導入についてお答えをいたします。小中学校の教育活動への取り入れについてのお尋ねでございました。

学校では、社会の中で暮らしていくためのスキルを学ぶソーシャルスキルトレーニングを実践しております。アンガーマネジメント学習もその1つとして、自分自身を知り、受け入れることや、感情をコントロールすることなどを必要に応じて学んでおります。例えば、個別の指導を行う通級指導教室では、毎時間、気持ちの温度計を使って自分の感情の状態を捉え、教師に伝えます。

怒りの気持ちについて、教師は6秒を数える、深呼吸をするなどこれまで指導してきた行動をできるように心が落ち着く魔法の呪文の合言葉を伝え、コントロールの仕方をアドバイスしております。

学級全員に向けては、スクールカウンセラーの指導も受けながら、朝夕の短学活の時間に取り入れたり、学級指導や道徳の時間で扱ったりしています。

例えば、嫌な気分になったときの対処方法の授業では、その授業を終えた後、82%の生徒が役に立ちそうと答えていたそうでございます。また、人間関係の悩みを改善する「行動する道徳」のテーマで、「地域連携支援コーディネーターふらっと」の作業療法士、山口講師を招いて自分のトリセツを作り、仲間と交流することで、感じ方の個性について学ぶ授業を中学校でやったところがございます。

先だって、同様の研修が市の職員を対象に開催されまして、私も参加しましたが、こうしたことが多様な他者を尊重する行動につながり、自分自身も負の感情を減らすことができるということが、ストーンと心に落ちました。今後、こうした学びも他の学校へも広げていきたいと考えております。なお、教職員につきましては、アンガーマネジメント研修は、県教育委員会から資料をいただき、今年度、全学校で実施しております。

〔教育長 沖畑康子 着席〕

◎議長（澤史朗）

続いて答弁を求めます。

〔総務部長 泉原利匡 登壇〕

□総務部長（泉原利匡）

2点目のご質問、職員研修や市民講座等への活用についてお答えいたします。

飛騨市では、従来、市民を対象とした子育てと仕事の両立、女性リーダーの育成などをテーマとする講演会や意見交換などを行っており、その中で、平成30年3月には、岐阜市出身の「NPO法人あゆみだした女性と子どもの会」理事長である広瀬直美氏を講師にお招きし、「イライラ・怒りをポジティブに～家族のアンガーマネジメント～」と題して、アンガー（イライラ、怒りの感情）をマネジメント（上手に付き合う）ための心理教育や、そのトレーニング方法である6秒ルールを学ぶ研修会を実施しました。

研修会には、子育て中の女性13名が参加され、研修後のアンケートでは、85%の方から満足・大満足と大変好評であり、男性にもぜひ学んで欲しい内容であるとの意見をいただきました。

その後、アンガーマネジメントについては、研修会等を開催しておりませんでした。議員ご指摘のとおり、家族間のコミュニケーションや子育てにおけるストレスの付き合い方が大切だと思いますので、改めて職員研修や市民を対象とした研修会の開催を検討してまいりたいと考えております。

〔総務部長 泉原利匡 着席〕

○1番（小笠原美保子）

ありがとうございます。もう取り組みもされていて、本当に皆様の満足度が高いというのが分かって、私すごく今嬉しいんですよ。なぜかという、とても大事なところだと思いますし、今の市民の子育て中のお母様たちも、85%が満足していらっしゃったというのは、おうちに帰ってからもお子さんたちに対する態度とか、旦那さんに対する態度とかに表れると思います。よい家庭がつかれるというのは、そこから始まると思いますし、ぜひとも継続して続けていただけると、みんなが幸せになれるので、いいかと思います。

ちょっと思ったんですけど、学校で取り組まれていて、82%の子供たちが役に立つと思うと答えていらっしゃると言うんですけども、長続きするのは難しいかもしれませんが、直後はクラスの雰囲気が良くなっているとか、何か目に見えたものはあるのか教えてください。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□教育長（沖畑康子）

本当につい先日といいますか、毎月、いじめ等の報告を上げてもらっているのですが、それは本当にケンカのようなものから全部上がってくるんですが、その中に遊びの中で自分の思うように相手が動いてくれなくて、イライラして、つい手や口が出てしまったという子が居たんですけども、指導の中で、「そういうときはどうしたらいいんだろうね。」という先生の問いかけにその子が考えて、先生に話したり、1人で離れるとかと言っていたんですけども、その後、様子を見てみると、やっぱりイライラしているなという場面に出会うんですけども、そのときには、紙に一生懸命書いて心を落ち着けている様子であったり、それから本当に1人で離れて静かにクールダウンをしているような様子が見られているということで、担任も大変喜んでおりました。日常的にそうしたことが子供たちに指導されているので、子供の中で対処方法の理解ができ

ているということではないかと思っています。

中学では、さらにその後、それでもイライラが収まらないときはどうしたらいいんだろうというようなことも考えたりも行っております。

学校の中では、大変有効であるということを感じておりますので、先ほど事例としてお話しした中学校では、来年度は月1回くらいで、できないかなということも言っているそうです。

ただ、ほかの教科の時間数との兼ね合いがありますので、これから検討されると思いますが、そういうふうはその効果を実感しているところがございます。私どもも本当に広めていきたいなというふうに思っております。

○1番（小笠原美保子）

学生さんとかお子さんとかというと、やっぱりメンタルなところがまだ今から育つところですし、感受性豊かな子たちも今、増えていますし、この間、ちょっと学校の現状が変わったときに精神的に、新型コロナウイルス感染症の影響かもしれないんですけども、敏感な子が増えているというのを伺ったんですよ。

結局、今までは、何かイベントがあったときに、お互いに攻め合ったりすることがあったりするので、いじめのもとになっていたり、不登校の原因であったりすることもあったというのを伺いました。

ただ、今、イベントが減っているので、そういった事例も減っているというのを伺いました。チャンスとして、今は新型コロナウイルス感染症でイベントが減っているときだからこそ、そういったことに特化して取り組んでいただければ、学校生活もスムーズにいったりとか、大人になって苦労しなかったりするのかなというのを感じるの、是非ともよろしく願いいたします。

あと、市の職員さんに対してどうかなというのを2点目でお伺いしたんですけども、私は職員さんもすごく必要だなというのを正直思っています。ここで言っているのか、申し訳ないんですけども、結構市民の方から感情的になる職員さんがいらっしゃるというのを、私、名指して何度も伺っているんですよ。人間ですので、忙しかったらイライラすることもありますし、バタバタもするとは思いますが、伺っている市民の方がビクビクして遠慮をするようなことがあってはならないというのだけ、私は思うので、是非ともそこら辺に対しても取り組んでいただきたいと思うんですけども、いかがですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□総務部長（泉原利匡）

議員もおっしゃいましたけども、このアンガーマネジメントというのは、やっぱりトレーニングで身につけられるということでございますので、やはりイライラすることを抑えるようなトレーニングをするということは大切だと思いますので、研修計画の中に含めていきたいと思っております。

○1番（小笠原美保子）

是非ともよろしく願いします。割と頻度高く、そういったお話は聞くので、市民のためにもお願いします。やっぱり子供たちだけではなくて、大人も必要だなというふうに、私も含めていっつも思っています。

でも、怒るということが駄目なことではなくて、やはりその先生が生徒さんにいい子になって欲しくて怒る、叱るという場合も必要ですし、上の方が下の方を成長していただくように叱るという場面も必要だと思います。優しいばかりがいいのではないというのは分かっておりますので、是非ともそういった場合は、怒られた方も心に届くというか、身にしみて分かると思いますし、是非とも自分の感情の爆発と、本当に相手を思っていることという違いがあるというのは、小さいうちからトレーニングしていただくといいかなと思いますので、是非ともよろしく願いいたします。

それでは、2点目の質問に移らせていただきます。先ほどの井端議員の質問とほとんど重複するんですけども、市民の皆様の大きな関心事でもありますし、またちょっと違った角度というのでも必要なと思いますので、通告どおり質問いたします。

飛騨古川駅東開発についてお尋ねいたします。飛騨高山大学の設立を起点とし、飛騨古川駅東エリアにおいて地域とつながる共創拠点の整備が開始されると、2022年1月20日にプレスリリースされました。飛騨市の活性化や地域の未来づくりへ貢献したいという、地域への強い想いを反映した事業だと整備開始のお知らせにはあります。

共創拠点の整備予定地と、発表された図面には、現在、市で管理している駅裏駐車場もあることから3点お尋ねいたします。

1つ目は、今後の予定についてお尋ねいたします。プレスリリースされた資料の整備予定地にもある、駅裏駐車場について本計画のスケジュールには、令和4年度春以降に駐車場関係の移転整備と明記されております。間もなく移転整備されてしまうようですが、今後の予定はどのようになっているのでしょうか。また、市の今後の発展を見据え、市として関わり方について、お考えを聞かせてください。

2つ目は、月極駐車場として利用している方への対応についてです。現在、月極で駅裏駐車場を利用されている方が3月中に移動しなければならず、お困りだとの声を聞きました。車種や生活の環境、また利用時間など各家庭でそれぞれ違います。代替場所をご提案されているようですが、おひとり、おひとりの状況に合わせ、じっくりと寄り添ってご要望やご意見をお聞きしているのでしょうか。

3つ目は、地域のための役割をお尋ねいたします。それなりに大きな商業施設ができることで車の出入りが多くなり、事故の危険性が増えることが考えられます。隣接する地域の方から子供の登下校時の交通事故、また、騒音等で困るのではないかとの意見も多々あります。また、混雑時の渋滞等、周辺の住民への影響もあります。「どんなものがいつできるのかよく分からない。」とのお声もありました。どこへ聞けばよいのか分からず心配される方、住民の安心のためにも、行政として窓口となりパイプ役になっていただきたいと思いますが、どのようにお考えでしょうか。以上お尋ねいたします。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔商工観光部長 畑上あづさ 登壇〕

□商工観光課部長（畑上あづさ）

それでは、まず1点目の今後の予定についてお答え申し上げます。

開発者からの計画では、今年の秋頃には代替えの駐車場を完成したいと聞いております。そこで井端議員のご質問に市長からお答えしたとおり交換の手続きが必要となります。

現在の若宮駐車場は、公の施設として駐車場条例に規定している駐車場ですが、これを交換するためには、地方自治法の規定により、まず公の施設から外すために駐車場条例から削除を行い、続いて、市において行政財産から普通財産への移し替えを行った上で交換を行います。その後、新しい駐車場を行政財産に登録するという手順になります。

このうち、駐車場条例から現在の若宮駐車場を削除する段階で、条例改正案を議会に上程することとなりますが、市としては具体的な計画がまとまり、工事に着手されるか、着手が確実になったのを見極めて条例改正案を上程し、議会のご判断を仰ぎたいと考えております。

現時点では、早ければ6月議会、遅い場合は9月議会での提案を見込んでおります。その後は2024年3月竣工を目指すということで、開発者側で設計等を進めていると伺っております。

市としての関わり方については、井端議員の質問に市長がお答えしたとおり、市が協力できることについて、積極的に支援してまいりたいと考えております。

続きまして2点目の月極駐車場として利用している方への対応についてお答えをいたします。若宮駐車場の月極駐車場部分の現状といたしましては5名の方に9台分の使用をいただいております。利用状況といたしましては、業務用の車両または、複数車両の長期保管場所として使用されているのが実態です。

今回の月極駐車場部分の終了に伴い、利用者にご案内してから契約終了するまでの猶予期間については顧問弁護士とも相談し、3ヵ月の猶予期間でよいという回答を得た上で、3月31日をもって月極契約を終了する旨を、12月16日付の文書で使用者にご案内しております。また、この文書の中では、次の駐車場が見つからず、お困りの場合は商工課へ相談していただくよう記載をさせていただきました。

このご案内に対し、使用者からの相談は1件のみで、その方に対しては、事前に調査把握しておりました、代替え候補地としての近隣の民間駐車場の中から適切と思われる場所をご紹介します。

次に3点目の行政の役割についてお答えいたします。今回の飛騨古川駅東開発に限らず、新しい商業施設等が立地する場合は、特にご近隣の方々からは、様々なご意見が出るものです。最近、古川町内で建設工事が始まっている商業施設でも同様の声を伺ったこともありました。

大きな規模の店舗については、大規模小売店舗立地法による届出等もありますが、県への届出のみであり、地域に影響がある場合においては、事業者において説明会等を実施してもらうように働きかける必要があります。

今回の事業に際しましては、井端議員のご質問に市長が答弁したとおり昨年12月に子供の遊び場検討委員会に対する説明会、商業関係団体の代表者や役員に対する説明会、開発予定周辺地域の区長さんに対する説明会が行われておりまして、開発者においても、随時地元向けの説明が行われると承知しておりますが、市としても市民の様々なご意見を開発者にお伝えし、不安解消に努めていただくようお願いしてまいります。

〔商工観光部長 畑上あづさ 登壇〕

○1番（小笠原美保子）

市民のパイプ役になっていただきたいと私が言ったのは、通告には不満とか不安というものしか書いていなかったもので、そちらのお声が大きいと思われたと思うんですけども、実際のところは前向きなお話も、あるにはあるんです。

例えば、私が伺っているのは、映画館とか娯楽施設が欲しいとか、そういったご要望、あと、これは前から聞いているんですけども、古川の町をお散歩したりとか、お祭りやイベントであったりとか、お子さん連れの方たちがお散歩するにはすごくいい場所なんですけども、授乳する場所がないというのは伺っています。

おむつを替えたりするベッドは公衆トイレにはあるんですけど、本当に寝たきりの赤ちゃんなら黙って替えるかもしれないんですけど、ある程度、知恵がついて大きくなったお子さんのおむつを替えようと思うと、ちょっと普通の公衆トイレで変えようと思うと嫌がるんですよ。何か薄暗いし、正直、綺麗でもないのだから赤ちゃん連れのお母さんたちが、ちょっと休んだりとか、何か食べさせてあげたりとか、授乳できる場所があるといいなというのは前から伺っています。

今回もそんなようなことをちらっと耳にしましたので、不安や不満はもちろん大きいと思えますけども、こういったお声とかもできれば、どこへ言えばいいのか分からない方ばかりなので、だからパイプ役というお話をさせていただいたんですけど、どう思われますか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

ただいま、小笠原議員から承りました前向きないろいろなご提案とか、ご希望などにつきましても、市側と開発者側で定期的に協議の場を設けておりますので、そういった場所でも、お声の1つとして伝えさせていただいて、市民の皆様にご利用していただきやすい施設になるように検討させていただきようをお願いしてきたいと思えます。

○1番（小笠原美保子）

その点については、ぜひよろしく願いいたします。

あと、駐車場のことをちょっと伺いたいんですけども、先ほどの井端議員の説明のときにもありましたが、今の月極で使っていらっしゃる場所というのをいずれは廃止する予定でいたとお話がありましたが、廃止する予定でいたというのは、目途としてはどのぐらいを考えていらっしゃったんですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□商工観光課部長（畑上あづさ）

月極駐車場部分を廃止する目途として具体的にいつごろまでという予定を立てていたわけはありませんが、今回、駐車場の交換のお話が出てきましたので、それで前倒しといたしますか、させていただいて検討したというところでございます。

○1番（小笠原美保子）

ということは、今お借りしている方たちは、いずれはなくなるということをご存知なかったということですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□商工観光課部長（畑上あづさ）

おっしゃるとおり、今までのその心づもりのことについては、お伝えしておりませんでしたので、今回、初めてこういう事業があって廃止することになるということをお話したということになります。

○1番（小笠原美保子）

そうですね。3ヵ月という猶予があるとしても、多分お借りしている方たちにとっては、いきなりという感じにはなると思うんですね。ご相談があったので、代替場所を提案されたというところを見に行行って来たんですけど、その方にとっては、これは厳しい駐車場だなというのを感じたんですね。そこらあたりはご本人からも、多分お声があるのではないかなと思うんですけども、伺っていませんか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□商工観光課部長（畑上あづさ）

小笠原議員のところへご相談があった方と、私どものほうへ相談にみえた方が一致しているのかどうか、今の情報では分かりませんので、そこは何とも言いがたいのですが、うちへご相談いただいた方については、停めておられる車種とかを考慮した上で、一番近くて、候補地の中では最適と思われる場所についてご案内をしたということで担当からは聞いております。

○1番（小笠原美保子）

ご本人が納得されていないというのは、私が思うに、やっぱり今のように条件であったり、家庭環境であったりとか、その方の望んでおられることをじっくりとお尋ねをした上でのご提案なのか、そこら辺が違っていると、一方的に言われたという感覚になって納得できないのではないかなと思います。その点についてはどう思われますか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□商工観光課部長（畑上あづさ）

月極の廃止についてお伝えしたのも、必要最小限の期間というところに結果としてなってしまういまして、当然、計画が分かったのがもっと前の段階であれば、もっと長いスパンをもって廃止をお伝えして、対応に使っていただける時間も長くとれたのだと思いますが、今回の時間の経過からすると、3ヵ月しか設けられなかったところは致し方ないこととはいえ、申し訳ないと思っております。

ただ、相談に関しては、担当が実際どのようなやりとりをしたのかまでは、私は承知いたしかねるところでありますけれども、ご案内の仕方としては丁寧に対応したと思っておりますので、また何か問題があるようでしたら、またお聞かせいただきたいと思っております。

○1番（小笠原美保子）

そうですね。ひとからげに月極駐車場をなくすという話ではなくて、やはりお金を払ってまで利用して下さっている方たちには、やっぱりご要望に沿うようなところというのは、努力して

いただきたいと思いますし、一生懸命取り組めば、お相手の方だって納得できる部分も大きいかなと思います。

その新しい駐車場に関して、もともと廃止をする予定でいらっしやったので月極は作らないとは思いますが、どうしても必要な方も中にはいらっしやらないんですか。そういった場合は、やっぱり新しい場所に必要ではないかなというのを感じるんですけども。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

△市長（都竹淳也）

市が月極駐車場を運営するという意味をどこに設けるかです。

もともと、なぜここに月極駐車場を作ったのかというのが、正直よく分からないです。なので、既得権益的に当然なります。なので、そこは丁寧にやらなくてはいけない。そこが欠けていたのではないかというのはおっしゃるとおりだと思います。

そこは、今からでももっと丁寧に説明する必要があると思いますので、もう廃止するんだから、とにかく従ってくれというわけでは当然ないんですが、ただ、また、月極駐車場作るとすると、何のために作るのかということです。

市内で駐車場が慢性的に不足していて、駐車場難民のような方がいて、非常に不便を来しているというのが常態化していれば、行政としてそれに取り組むという必要があると思いますが、ある程度、民間の駐車場もございますし、そうした中で、積極的にそこにあえて取り組むということの必要性自体は、私自身は今現在、少なくとも古川町内に関して強く感じているわけではないというのが正直なところではあります。

また、場所も若宮駐車場は少し郊外になりますので、一番の市街地であれば、駐車場はほとんどありませんものですから、皆さん大変苦勞しておられるというのは承知しております。私も町なかの住まいですから、当然、実際に自分も苦勞しております。けれども、やはり事情や場所的なものも考えたときに、市として積極的にやるかということ、どちらかとやっぱり消極的にならざるを得ないというのが正直なところではあります。

○1番（小笠原美保子）

分かりました。先ほどから私がしつこく言っているように、おひとり、おひとりのご意見というのは、これからもぜひ聞いていただきたいと思います。

やっぱり魅力あるまちづくりと言うのは簡単なんですけども、どこに向いているかということも重要だと私は思います。その町を作っている方たちというのは、市民の方、おひとり、おひとりですし、その方たちが、もうこの飛騨市にいられないと、先ほども人口減少の話がありましたけど、ここにはいられないと出ていくのは本当に悲しいことだと思いますので、是非とも今後皆さんが喜んで住めるようなまちづくりをやっていけるように、力を合わせていけたらいいと思いますので、よろしく願いいたします。私の質問は以上で終わります。ありがとうございました。

〔1番 小笠原美保子 着席〕